

四国コンクリート研究会

「四国のインフラの将来に関する研究委員会」第1回 議事録(案)

日時：平成15年9月22日(月) 14:00～17:00

場所：香川大学工学部 本館 1F 会議室

(〒761-0396 高松市林町 2217-20)

出席：堺孝司，草薙悟志，梶久夫，増島隆夫，久保市郎，中島俊彦，井口久美，田野清文，
秋月伸治，藤井友行，金山清一，穴吹敏範，長町恵，原田裕美(出席13名/委員16名)

議事：会議次第(資料1-0)による

1. 設立準備会議事録(資料1-2)

- ・議事録の確認。

2. 国土交通省・四国新世紀ビジョンおよび投資額の推移について(資料1-3～5)

- ・国土交通省四国地方整備局のビジョン・予算・投資額等について説明
- ・投資額の減少は今後も継続
- ・重要施策
 - ・南海地震に対する防災
 - ・異常気象に対する災害対策
 - ・1.5車線道路化

3. 香川県のビジョンおよび投資額の推移について(資料1-6)

- ・投資額の減少は今後も継続
- ・箱物は今後中止。
- ・南海地震への備えが貧弱。津波対策にしても高知県・徳島県よりも劣り貧弱である。
- ・予算は全て県発注の工事に使用しているわけではなく、現在は建設工事に対する予算の確保が難しい状況。
- ・重要施策
 - ・3大インフラは終了
 - ・環境面 - スラッグの有効活用とインフラ整備をリンクする
 - ・少子高齢化対策

4. 意見交換

JR 四国の状況について

高速道路に対する対応

- ・伊予市までの電化
- ・ディーゼル車両の高速化

H8 年明石大橋の開通に伴い輸送量が大幅にダウンした。(高速バス 60%、JR 40%)

通勤・通学に関する対応

- ・国鉄時代に比べ本数は増便
- ・単線のため高速化ができない
- ・少子高齢化や自動車により通勤・通学の利用者が減少
- ・高知県に関しては災害が起こると大幅に利用者がダウンし、回復も難しい。

本州四国の交流を掘りおこす施策を県等と実施する。

複線化なくして現状より乗員増は困難。LRT (=郊外接続型路面電車) 化

私鉄との関係

- ・相互乗り入れは線路幅、電気量の関係から困難
- ・JR と琴電や伊予鉄との共同チケットはある

高知駅には高架に対する環境を考慮した設計を実施

交通手段は投資の余裕はない

道路公団の状況について

Xハイウェイ 完成

8 字ハイウェイ化の推進 (愛媛県の南、高知県の西、徳島県の南)

国道との連携化、現在は JR 四国との連携はなし

規格変更による延長工事の推進

本州・四国との連携として 3 デイズチケットなどはある

高知県の状況

三位一体改革 5 年後 一般は 500 億円減、土木は 100 億円減

高知県は県土が広く整備すべき規模が大きいため、1 人あたりの社会資本量が大きい
(600km の道路整備を断念、新規事業は凍結)

地域は独自で事業をやるように分担 本庁職員を 50~60 人派遣

重点施策

- ・ 1.5 車線化、命の道と言われている 8 の字ハイウェイ等は重要視されている
- ・ 四万十条例（土木工事の手引き）に基づく整備。
- ・ ごみ焼却灰溶融スラグ 高知市、中村市では溶融スラグを有効利用していく。現在は舗装だけだが将来はコンクリートにも有効利用していきたい。
- ・ 軌道緑化工法 電車軌道の緑化

四国電力の状況

- ・ 需要の伸びなし
- ・ 自由化の進行

→ 投資に対する回収できるかのジャッジが難しい。
現設備の有効活用に重点を置く。

自由意見

- ・ 環境の切り口で考える 整備することが環境創造になる
- ・ スプロール（拡大）化したインフラをどう維持していくか
- ・ 各県がばらばらに四国らしさをだすだけでなく、四国全体で四国らしさをアピールしていければいいのではないか。例えば四国八十八ヶ所など。
- ・ 自然、歴史などが切り口にはならないだろうか。
- ・ 四国に合った仕事の創出をしていければいい。
- ・ 四国の外から見た四国らしさと外から人を四国に呼び込むための魅力が必要なのではないか。
- ・ 現在、香川県の舗装率は 99.99% でトップであり、道路密度は全国 4 位である。
交通事故、交通死亡事故も多い。
- ・ インフラということで自動車道のみでなく歩道、自転車道等を考えてほしい。
例えば歴史文化道等。しかし、歩道、自転車道等は予算を取るときにインパクトが小さいため取りにくい。
- ・ 瀬戸内海はフェリー等の関係からクルージング等にはむかないので景色だけでのアピールは難しいのではないか。
- ・ 市町村合併に伴う公共施設の廃棄・統合が必要ではないか。
- ・ 高齢化に対処したインフラ整備をしていければいい。
- ・ 歩道の整備はまだまだであり、自転車道（四国八十八ヶ所）など身近なインフラ整備が必要ではないか。

5. 第2回研究委員会について

- ・ 開催時期：11月17、24の週又は12月の頭で年内に1度開催
- ・ 開催場所：香川大学 工学部 安全システム建設工学科 会議室
- ・ テーマ：ゲストを2名ほど呼ぶ予定
 - 四国の観光ビジョン：観光協会（交渉後決定）
 - 地方の時代：荒木英昭氏、（財）都市づくりパブリックデザインセンター
理事長（元高知工科大学教授）

6. 添付資料

- ・ 資料 1-0：「四国のインフラの将来に関する研究委員会」第1回 会議次第
- ・ 資料 1-1：委員名簿
- ・ 資料 1-2：「四国のインフラの将来に関する研究委員会」設立準備会 議事録（案）
- ・ 資料 1-3：四国新世紀ビジョン 2001（国土交通省四国地方整備局）
- ・ 資料 1-4：平成15年度 当初予算額（国土交通省四国地方整備局）
- ・ 資料 1-5：事業費の推移（国土交通省四国地方整備局）
- ・ 資料 1-6：香川県の投資額の推移
- ・ 資料 1-7：行政運営の方針（高知県）
- ・ 資料 1-8：新聞切り抜き情報他

以上